

## ベストポスター賞の受賞の言葉

青山学院大学 社会情報学研究科 岡部 亮祐

この度は荣誉あるベストポスター賞を頂き、大変光栄に存じます。発表準備に際し研究室内外の皆様から数多くの助言を頂いた結果、良い発表を行う事が出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

研究を進めていく上で土台となるリサーチクエスションの形成や買い物難民の解消手法が思い付かない日々が続いておりましたが、教授方との議論で得た気づきや考え方が支えとなり、研究目的から一貫した調査方法を作り研究を開始する事が出来ました。

研究開始当初から買い物難民問題を解消したいという思いがありました。研究対象である八王子市は北部と西部において高齢化の進行が高く、商業施設への距離が遠い事から、買い物難民が多い問題があります。また高齢化がピークを迎えるであろう2040年には高齢化率が全国平均を超え、買い物難民問題に付随して交通難民といった問題も同時に深刻になります。

既存の公共交通システムをLSSM分析によって、八王子市民の多様な意見をアコモデーションしていくと、北西部と東南部において、はちバスの利用動機やバスルートの拡張の是非にギャップがあり、加えて料金やバスの内部座席の刷新の必要性があるといった問題が判明しました。このような分析結果より、問題の根底定義を「日常生活を快適に過ごすために、各種の交通機関やITサービスを最大限に活用し、生活に必要なものを生活の場で適時使えるようにする」事としました。

本研究では今後地区ごとの高齢化の影響の問題を明らかにした上で、市民の買い物の嗜好やバス路線決定項目の優先順位を明らかにします。その上でモデル路線のシュミレーションを行い、走行時間を計測します。その計測済みの仮ルートを交通企画課やバス会社の方に評価いただいた上で、中長期的に高齢化の影響を考慮した利用者にとって最もアクセシビリティの効用の高いルートを作成します。本研究のバスシステム作成が実現すれば、日本全国の交通空白地域を走るコミュニティバスにモデルを提供して実社会で役立てると考えます。今後自治体が公開するオープンデータが増加し、地区ごとの市民の意見が集められれば、より市民にとって効用の高いバスルートの作成も期待もできます。

最終的にはコミュニティバスの到着時間と鉄道機関の出発時間の接続時間を調整し、現在実証段階にあるMaaSの情報の統合もコミュニティバスで実現したいと考えていますこのように本研究が実社会に与える影響は、市民の地区ごとの買い物施設へのアクセシビリティの効用を高めるだけではなく、鉄道との接続時間の統合を行い、地域ごとの移動格差を是正する事も期待できます。

発表では様々な方々に清聴いただくと共に、本研究に対しての進展のある意見をいただき、今後の研究方法の改善点を把握する事が出来ました。今後は実際に市民の意見を収集してリッチピクチャー化し、オープンデータだけでは収集する事が出来ない市民の意見も分析し、市民にとって効用の高いバスルートの作成に向けて専念したいと考えています。

これからオープンデータが普及して個人がマイニングした分析結果が、公共の情報システムを支え、人々の生活を豊かにする習慣が広まっていく機会が増えていく事を願っています。

本研究はまだ始まったばかりですが、掲げたビジョンに向かって研究活動に専念したいと考えています。